

# 古文書の紹介(1)

郷土調査担当では、郷土に関する資料を幅広く調査・収集し、貴重な資料の散逸や破損を防止するよう努めています。収集した資料を保存し、活用することで、佐賀県の学術、文化の発展に寄与することを目的として業務を行っています。今回は、これまでに本館で収集・整理した資料の中から紹介します。

## ● 資料名 肥前国松浦郡之内變地帳〔図唐田414〕 天保8年(1837)年

この資料は、浜崎(現唐津市浜玉町)の田中家に所蔵されていた資料です。この資料は、元禄の国絵図の一部に改める必要があったことを報告したもので、冒頭に、「今度国絵図御改め仰せ出だされ候二付(国絵図を改めるよう指示があったこと)」とあります。従って、この文書が天保6年(1835)、幕府によって作成が命じられ、同9年(1838年)に完成した、天保の国絵図の作成過程に深く関わりのあるものであることが分かります。

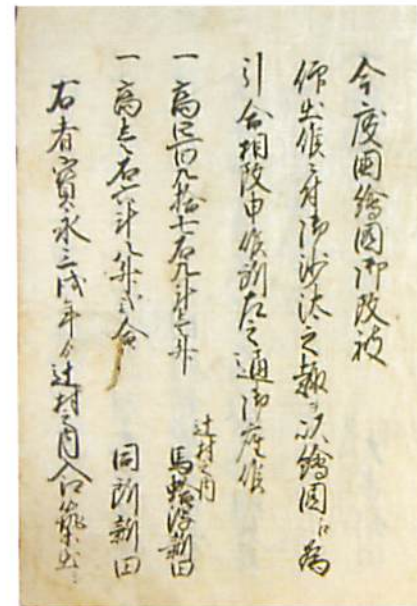
改める必要があった報告の例の一つ「辻村」の例を紹介しましょう。辻村は、現伊万里市波多津町ですが、この時代は唐津藩領でした。

- 一 高四百九拾七石九斗壹升 辻村之内 <sup>まてがた</sup>馬蛤瀉新田
- 一 高壹石六斗八升貳合 同所新田

と、「<sup>まてがた</sup>馬蛤瀉新田」が「辻村」の中に新しく生まれ、「高壹石六斗八升貳合」であることを報告しています。そして、その経緯が次の行以降に述べられています。

右は宝永三戌年より辻村之入江築土し、同号五年出来候新田の趣にこれ有る依り、竈数貳拾四軒これ有り、辻村より巳の方に当たり、道程五丁(一丁は約109<sup>坪</sup>)これ有り依り、同所新田は明和五子年出来候趣にこれ有り候、絵図に相見申さざる依りに付き、此の度改村形等書載申し候。

宝永3(1706)年に辻村の入江に堤防を築き、この新田は明和5年(1768)に完成しました。(元禄国)絵図にはなかったので、この度、村の名前を書き加えます。



「<sup>まてがた</sup>馬蛤瀉新田」の外、旧東松浦地区の牟形大串、星賀の<sup>いぬがしら</sup>犬頭、半田の<sup>やはぎ</sup>矢作、平原でもそれぞれの新田造成があったや、これに伴って米の収穫が増えたことなどを報告しています。また、池原村、牟田村、値賀村、値賀河内村、有浦下村、妙見浦、波多津浦、久里村、佐志、徳末(徳須恵)、松浦川筋の養母田についても、これまでの絵図の記載を変更しなければならない箇所が出てきたことが記されています。